

令和 6 年

**乙訓福祉施設事務組合議会第 3 回定例会会議録**

開会：令和 6 年 9 月 3 0 日

**乙訓福祉施設事務組合議会**

令和6年乙訓福祉施設事務組合議会第3回定例会

目 次

○出席議員	.....	1
○欠席議員	.....	1
○事務局職員出席者	.....	1
○説明のため出席した者	.....	1
○議事日程	.....	2
○開 会	.....	3
○日 程 1 会議録署名議員の指名	.....	3
○日 程 2 会期の決定	.....	3
○日 程 3 管理者の諸報告	.....	4
○日 程 4 監査報告第3号 例月出納検査の結果報告について	.....	5
○日 程 5 第7号議案 令和5年度乙訓福祉施設事務組合一般会計歳入歳 出決算の認定について	.....	5
○日 程 6 第8号議案 令和6年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予 算（第1号）について	.....	19
○日 程 7 議員の派遣について	.....	20
○閉 会	.....	22

令和6年9月30日（月）

# 会 議 録

令和6年乙訓福祉施設事務組合議会第3回定例会

議 事 日 程

令和6年9月30日(月)

午前10時00分開議

○出席議員(9名)

向日市	村田光隆議員	米澤知紀議員
	和島一行議員	
長岡京市	中村亮太議員	田村直義議員
	住田初恵議員	
大山崎町	井上博明議員	小畑孝信議員
	辻真理子議員	

○欠席議員 なし

○事務局職員出席者

西澤美香書記
足立愛夏書記

○地方自治法第121条の規定により、説明のために出席した者(11名)

安田守	管理者(向日市長)
中小路健吾	副管理者(長岡京市長)
前川光	副管理者(大山崎町長)
上野隆	監査委員
川本進	事務局長
鹿島一平	会計管理者(向日市会計管理者)
城谷晋太郎	総務課長
上田佳子	乙訓若竹苑施設長
小松悦子	乙訓ポニーの学校施設長
久保田英幸	介護障害審査課長
山田洋平	障がい者相談支援課長

○議事日程

- 日程 1 会議録署名議員の指名
- 日程 2 会期の決定
- 日程 3 管理者の諸報告
- 日程 4 監査報告第3号 例月出納検査の結果報告について
- 日程 5 第7号議案 令和5年度乙訓福祉施設事務組合一般会計歳入歳出決算  
の認定について
- 日程 6 第8号議案 令和6年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算（第  
1号）について
- 日程 7 議員の派遣について

○会議録署名議員

長岡京市	田村直義 議員
向日市	村田光隆 議員

(開会 午前10時00分)

○井上博明議長 皆様、おそろいですので始めさせていただきます。

ただいまの出席議員は9名であります。

地方自治法第113条の規定により定足数に達しておりますので、会議は成立いたします。

ただいまから、乙訓福祉施設事務組合議会令和6年第3回定例会を開会いたします。

議事に入ります前に、我々と今日まで議会を共にしていただきました飛鳥井佳子議員が、去る8月28日に御逝去されました。我々本組合議員として誠に哀悼の念に堪えない次第でございます。御冥福をお祈りし、謹んで黙禱をささげたいと思っております。

各位の御起立をお願いいたします。黙禱。

(黙禱)

お直りください。御着席願います。

続きまして、本組合議員として、向日市の和島一行議員をお迎えすることになりましたので、ここに御紹介させていただきます。

本年9月20日付で本組合議会議員となられました和島一行議員です。

○和島一行議員 皆さん、おはようございます。

飛鳥井佳子議員が御逝去されました。その後任として、私、和島一行があとの期間、務めさせていただきます。飛鳥井佳子議員は本当に向日市愛の強い、乙訓愛の強い方でありましたので、その意思を引き継いで、私、和島一行が頑張っまいります。そして管理者はじめ、ほかの職員の方々、そして組合議員の皆様方、残りの期間、私、和島一行をどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○井上博明議長 ありがとうございます。

それでは、これより日程に入ります。

日程1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第75条の規定により、長岡京市の田村直義議員、向日市の村田光隆議員の両議員を指名いたします。

次に、日程2、会期の決定を議題といたします。

お諮りいたします。

今期定例会の会期につきまして、本日1日限りとすることに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

御異議なしと認め、よって、会期は本日1日限りと決定いたしました。

次に、日程3、管理者の諸報告であります。

安田管理者。

○安田 守管理者 おはようございます。

本日、令和6年乙訓福祉施設事務組合議会第3回定例会を招集させていただきましたところ、議員の皆様には御出席をいただきましてありがとうございます。

報告の前に、去る8月28日に逝去されました飛鳥井佳子さんに心から哀悼の意を表し、御冥福をお祈り申し上げます。

突然の悲報に接し、悲しみに耐えませんが、飛鳥井さんが乙訓福祉施設事務組合発展のために御尽力いただいたことを無駄にせず、これからもしっかりと本組合を運営してまいりたいと存じます。

また、先ほど御紹介がありましたとおり、先般の向日市議会の役選により、本組合議員に和島一行議員をお迎えすることになりました。和島議員におかれましては、本組合発展のためにお力添え賜りますようお願い申し上げます。

それでは、令和6年第2回定例会以降の報告をさせていただきます。

最初に、総務関係ですが、今年度第1回目の組合運営協議会全体会を8月7日に開催し、令和5年度の組合決算及び事業内容の概要について報告させていただき、構成市町の福祉担当委員と意見交換を行いました。今後も本組合の円滑な運営と問題解決に向け、より一層議論を深めてまいりたいと考えております。

次に、乙訓若竹苑についてですが、8月末現在の利用者数は、就労継続支援事業30名、生活介護事業3名の合計33名で、市町別利用者数は、向日市8名、長岡京市21名、大山崎町4名となっております。

また、地域活動支援センター事業の登録者数は33名で、日中一時支援事業の登録者数は50名、相談支援事業の8月末現在の契約者数は53名となっております。

そのほか、若竹苑内において火災を想定した避難訓練を9月20日に実施いたしました。

次に、介護障害審査課についてですが、介護認定審査会では、本年6月から8月まで合議体を57回開催し、1,343件の二次判定を行いました。そのうち介護認定審査会の簡素化の対象件数は163件でありました。

次に、障害支援区分認定審査会では、同じく本年6月から8月まで、合議体を9回開催し、115件の二次判定を行いました。

次に、障がい者相談支援課についてですが、乙訓障がい者虐待防止センターでは、6月28日に乙訓障がい者虐待防止ネットワーク会議が開催され、令和5年度の乙

訓地域での障がい者虐待対応について報告いたしました。

また、乙訓障がい者基幹相談支援センターでは、長岡京市社会福祉協議会と共催で7月から9月の間にサマーチャレンジボランティア2024を開催し、16名の方が乙訓圏内の障がい児・者支援施設でボランティア活動を体験されました。

最後に、乙訓ポニーの学校についてですが、8月末現在の児童発達支援事業利用児につきましては、向日市34名、長岡京市41名、大山崎町11名、合計86名で、障がい児相談支援事業の契約者につきましては、8月末現在で、向日市242名、長岡京市225名、大山崎町52名、合計519名となっております。

また、ポニーの学校内において地震を想定した避難訓練を9月27日に実施いたしました。

報告は以上でございます。

○井上博明議長 以上で管理者の諸報告を終わります。

次に、日程4、監査報告第3号 例月出納検査の結果報告についてであります。

監査委員の報告を求めます。

上野監査委員。

○上野 隆監査委員 失礼いたします。それでは、例月出納検査結果につきまして御報告申し上げます。

地方自治法第235条の2第1項の規定に基づく例月出納検査を令和6年6月27日、7月29日及び8月27日に実施いたしましたので、同条第3項の規定により、その結果を報告いたします。

各月ごとに関係諸帳簿等、証拠書類を照合し検査いたしました結果、出納等については適正に処理されていたことを確認いたしました。

なお、検査の対象及び結果等につきましては、お手元にお配りいたしました報告書のとおりであります。

以上をもちまして例月出納検査の結果報告を終わります。

○井上博明議長 以上で例月出納検査の結果報告を終わります。

次に、日程5、第7号議案 令和5年度乙訓福祉施設事務組合一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

安田管理者。

○安田 守管理者 ただいま議題となりました、第7号議案 令和5年度乙訓福祉施設事務組合一般会計歳入歳出決算の認定について御審議いただくに当たり、その概要について御説明申し上げます。

令和5年度の一般会計の歳入歳出決算は、歳入総額5億138万5,975円、歳出総額4億5,407万1,002円で、歳入歳出差引残額は4,731万4,973円となりました。

歳入の内容といたしましては、構成市町からの分担金が3億5,136万8,000円で、歳入全体の70.1%を占めております。そのほかといたしましては、負担金、府支出金、財産収入、繰越金等であります。

次に、歳出についてですが、内容を性質別に見ますと、人件費が3億5,961万8,032円で、歳出全体の79.2%を占めており、また、物件費が6,008万476円、補助費等が3,334万1,148円であります。

以上が令和5年度決算の概要ですが、詳細につきましては事務局長が説明いたしますので、よろしく御審議賜りますよう、お願い申し上げます。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 それでは、私のほうからは令和5年度乙訓福祉施設事務組合歳入歳出決算の内容につきまして、変動がありました項目を中心に説明させていただきます。

まず初めに歳入でございます。決算書8ページ、9ページをお開き願います。

1款分担金及び負担金、1項分担金では3億5,136万8,000円の収入で、前年度比較で38万円の減額となっております。これは令和5年度は前年度よりも介護保険認定件数の減少に伴う経費の減額を理由に当初予算の段階で分担金を減額で見込んでいたことによるものでございます。

次に、2項負担金では1億1,885万7,051円の収入で、前年度比較で1,129万3,593円の増額となっております。これは主に若竹苑とポニーの学校の施設運営に伴う給付費等収入でございますが、増額となったのは若竹苑での就労継続支援事業の利用者数が増えたこと並びにポニーの学校での児童発達支援事業の利用実績が前年度比較で増加したことによるものです。

なお、若竹苑及びポニーの学校での相談支援事業の契約者数は堅調に推移しております。

次に、10ページ、11ページの2款府支出金では210万円の収入で、前年度比較で50万円の減額となっております。これは京都府からの委託金が事業の見直しに伴い減額となったことによるものです。

次に、3款財産収入では583万9,284円を収入し、前年度比較で71万4,521円の増額となっております。これは主に若竹苑の授産事業での売上金で、前年度よりも外部からの下請軽作業等の収入や自主製品の売上げが増えたことが増額

の主な理由でございます。

次に、12、13ページをお開き願います。

4款繰越金では前年度からの繰越金といたしまして2,125万5,227円を収入したものでございます。

最後に、5款諸収入では196万6,413円の収入で、前年度比較で8万231円の増額となっております。労働保険被保険者負担徴収金が増収となったこと等が主な理由でございます。

歳入につきましては以上でございます。

それでは引き続きまして、歳出の説明に移らせていただきたいと思います。決算書14ページ、15ページをお開き願います。

初めに、1款議会費でございますが、こちらは本組合議会の運営に関する経費でございます。決算額は108万7,632円で、前年度比較で6万6,418円の減額となっております。令和5年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止により実施を見送ってきました議員視察研修を4年ぶりに実施いたしました。

続きまして、2款総務費、1項総務管理費でございますが、決算額は8,393万8,000円で、前年度比較で105万9,286円の減額となっております。減額の主な理由といたしましては、人事異動等に伴い職員の人件費が減ったことに加え、光熱費が減額となったことによるものでございます。

一方、委託料では庁舎空調設備改修工事に係る設計業務を委託しましたことなどから増額となりました。

次に、16、17ページの2項監査委員費につきましては、決算額18万3,000円で、予算執行状況は前年度と大差はございません。

続きまして、18ページ、19ページをお開き願います。

3款民生費、1項社会福祉費、1目若竹苑管理費でございますが、決算額は1億152万421円で、前年度比較で954万6,833円の減額となっております。減額の主な理由といたしましては、人事異動等により職員の人件費が減額となったことによるものでございます。

次に、20、21ページの2目若竹苑授産事業費でございますが、決算額は583万4,516円で、前年度比較で71万3,144円の増額となっております。これは作業売上金収入が増えたことに伴い、利用者作業工賃の支出も増額したことが主な理由でございます。

続きまして、3目介護保険認定事業費でございます。決算額7,549万9,853円で、前年度比較で429万8,643円の増額となっております。増額の

主な理由といたしましては、人事異動に伴い職員の人件費が増えたことに加え、令和4年度に実施いたしました要介護認定支援システム等の更新に伴い、使用料及び賃借料が増額となったことによるものでございます。

一方、報償費では介護保険の認定審査件数が前年度比較で671件減少したことにより、要介護認定に関わる主治医意見書作成謝礼の支出が減額となりました。

次に、22、23ページをお開き願います。

4目障害支援区分認定事業費でございますが、決算額1,503万6,912円で、前年度比較で51万9,176円の減額となっております。減額の主な理由といたしましては、令和4年度に障害者認定支援システム改修等の業務委託料を臨時的経費として支出したことによるものでございます。

続きまして、5目障害者相談支援ネットワーク事業費でございますが、こちらは乙訓圏域障がい者自立支援協議会の運営に関する経費でございます。決算額33万3,210円で、前年度比較で386万119円の減額となっております。減額の主な理由といたしましては、令和4年度末で退職しました事務局職員が採用できず、その職責を障がい者相談支援課長が兼務したことに伴い、職員人件費が減額となったことによるものでございます。

なお、人件費以外につきましては前年度と大差はございません。

次に、24、25ページをお開き願います。

6目障がい者虐待防止・基幹相談支援センター事業費でございますが、決算額2,804万6,041円で、前年度比較で755万5,138円の減額となっております。減額の主な理由としましては人事異動等のほか、令和4年度で退職しました職員の補充ができなかったことに伴う職員人件費の減額によるものでございます。

最後に、2項児童福祉費、1目ポニーの学校管理費でございますが、次ページにもまたいでおりますので、26、27ページも併せて御覧いただきたいと思います。決算額は1億4,259万1,417円で、前年度決算比較で263万7,755円の増額となっております。増額の主な理由としましては、人事異動等による職員人件費の増によるもののほか、次のページに記載しております7節報償費で児童発達支援事業利用者数の増加に伴い、発達相談に係る発達相談員の謝礼金の支出が増えたことによるものでございます。

以上をもちまして令和5年度乙訓福祉施設事務組一般会計歳入歳出決算に係ります私からの説明とさせていただきます。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○井上博明議長 次に、決算審査結果の報告を求めます。

上野監査委員。

○上野 隆監査委員 失礼いたします。それでは、令和5年度乙訓福祉施設事務組合一般会計歳入歳出決算につきまして、令和6年7月29日に審査を実施いたしましたので、その概要について報告いたします。

審査の方法といたしましては、地方自治法第233条第2項及び同法第241条第5項の規定により、管理者から提出されました一般会計歳入歳出決算書、歳入歳出決算事項別明細書、実質収支に関する調書、財産に関する調書及び基金運用状況についての書類審査を行い、併せて関係職員から説明を聴取しました。

その結果、いずれも関係法令に基づいて適正に作成されており、その金額、数値等は関係諸帳簿と符号していることから正確であると認められるものであります。なお、詳細につきましては、お手元の意見書のとおりでございます。

以上をもちまして決算審査の結果報告を終わります。

○井上博明議長 ただいま管理者及び事務局長から提案理由の説明、また監査委員から決算審査結果の報告がありました。本件について質疑を行います。

御質疑ございませんか。

住田議員。

○住田初恵議員 住田です。よろしく申し上げます。

決算の17ページに空調の設計業務委託費が281万6,000円となっているんですけども、去年の9月の補正で422万9,000円の補正がなされて、決算でこのような額になっているんですけども、どこの会社と契約して、どういう経過でこんなふうな額になったのかという、そういう過程が分かるような資料は出せないものなんでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 資料のほうは今、持ち合わせておりませんが、入札を実施いたしましたして、吉村建築事務所が落札されております。その入札をしたことによりまして、その金額に落ちたということでございます。よろしく願いいたします。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 例えば長岡京市でしたら、例えば学校の外壁を修理するときはいろいろ公募して、応募してこられた事業者さんが何円で落札とかいうのが出て、こういう理由でここに決めましたというのがあるんですけども、そういうものはこの議会に提起されなくてもいいんでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 金額的に議会にお示しする規定になっておりませんので、今

現状はお示ししていないという状況でございます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 何か条例で決められてるということですか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 おっしゃるとおりでございます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 ちょっと十分納得できてませんが、それは置いときます。

同じく17ページにいろいろなシステムのことが載ってるんですけども、ネットワークシステム保守管理料とか記載されてるんですけども、今、自治体ではデジタル化が進められております。乙福では国のLGWANという何か総合行政ネットワークというのがあるんですけども、そこには入っておられないのでしょうか。LGWANというのは自治体間同士の相互につながる行政専用のネットワークで、自治体間で情報交換もできますし、それから独自のネットワーク回線を使うのでセキュリティも高いようで、地方公共団体情報システム機構が運営してるということのものなんですけれども、そういうものは入れられてるのでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 乙福に関しましては、今、LGWANを引いておりません。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 直結で情報が早く入ってくるということで、やっぱりこういうのがないと情報がちょっと見落とししたり、入らなかったり、対応が遅れたり、抜けたりすることもあるんじゃないかなと考えるんですけども、今後そういうことは入れられるお考えはあるのでしょうか。

○井上博明議長 管理者。

○安田 守管理者 御存じだと思うんですけども、LGWANは小さい自治体というか、特別地方自治体ですけども、単独で導入するには極めてコストが高いわけですし、例えば一組と一緒に引くとか、市町村に付随して引くとか、いろんな方法がありますけれども、これはどこの組合でも引けていない状況です。ですので、LGWANの利点、欠点は私たちは十分に理解しておりますけれども、今現状でこの乙訓福祉施設事務組合単独で引くにはコストの面でよくないということで判断しております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 今後、自治体の情報システムの標準化が進められていくわけですけども、この中には介護保険の事務とか、障害福祉事務も入ってくると思うんです

けど、ここにもかなりコストがかかるかと思うんですけども、このコストの試算というのはされてるのでしょうか。

○井上博明議長 久保田介護障害審査課長。

○久保田英幸介護障害審査課長 久保田のほうから御報告させていただきます。

議員御指摘のとおり、ただいま市町村の標準化システムという流れがございます、その中ではガバメントクラウドであったりということで、極めて高いセキュリティでシステムを構築しなさいというような指導がございます。試算と言うと変ですが、我々もシステム更新に当たって次期システムについてガバメントクラウドで実施するに当たってはというようなところでネットワークの構築費用等を試算したところ、単純にL G W A Nとは違うんですが、ガバメントクラウドへの接続だけでも月額約50万円の通信料、委託料等がかかってくると。年間に試算しますと約600万円。これを一組側とベンダー側と両方に同じ仕組みをつくるとなるとさらに倍、1,200万円からの通信費用がかかってくるということは一応調べてる状況なんですけど、ただ、それを費用対効果を上回るだけの効果が求められるかというところで今、思案中でございます。

以上です。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 なかなかここ単独に入れても600万円かかるし、合わせては1,200万円かかるということで、やっぱり年間のコストがかからないようなことを考えていかなきゃいけないんじゃないかなと思います。

乙福の財政調整基金、今、87万4,000円余りしかありませんし、この施設の空調の故障でも迅速に対応できなかったほど余裕がありませんし、乙福に標準化のコストがかからないように二市一町で工夫とかはできないもののでしょうか。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 議員おっしゃった点も含めまして、今、市町の障害担当、介護担当等と協議を始めたところでございます。その推移を含めまして、今後検討していきたいと思っております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 ぜひ検討していただいて、なるべく乙福に、あまりお金もないところですし、コストがかからないようにしていただければと思います。

令和8年度からでしたかね、管理者が持ち回りになるんですけども、今後、事業を決めていくとか、予算を立てるときとか、どんなふうに変わっていくのでしょうか。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 基本的には今と変わらない、変わることはございません。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 職員の出向も、例えば長岡京市だったら先ほどの課長が出るんですけども、そういう職員の出向体制も変わらないんですか。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 そういう点も含めまして、基本、今、管理者、副管理者等を含めまして協議をふだんから予算を含めて協議もしておりますので、その中で最終的には決定するものでございます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 はい、分かりました。

長岡京市からも出向で来られてますし、向日市からも来られてるんですけども、やっぱりほかのところに行って学ぶことも多いんじゃないかなと思うんですけども、やっぱり生え抜きというか、プロパーの職員さんの方も含めて人事交流がされたほうがいいんじゃないかなと思うんですけど、その辺のお考えはどうでしょう。

○井上博明議長 安田管理者。

○安田 守管理者 それぞれの市町におきまして人材の状況も異なっておりますし、一定の何ていうんですかね、ルールを持って出すというのはなかなか難しい状況だと思います。ただ、議員おっしゃいました人材の交流という意味では、それはまさにやるべきだとは思いますが。しかし、それも思ってるんですけども、なかなかそれぞれの市町が厳しい職員数でやっておりますので、その中でどれだけ出して、戻してということが出来るかということもありますので、それは状況によってやっていきたいと思えます。考え方は悪くないと思えます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。ぜひ交流できるようにしてください。

一旦終わります。

○井上博明議長 ほかに。

米澤議員。

○米澤知紀議員 すみません、よろしく申し上げます。

事務報告書になるんですけども、事務報告書13ページ、若竹苑のほうで8月31日と11月15日に防災避難訓練をしているということなんですけれども、療育環境の中でこの防災避難訓練を行うのとても大変だなというのを私自身も実感してるんですけども、そのときの様子、分かる範囲で構いませんし、そのときに対

応したこととか工夫したことというのがあったら教えていただきたいなというふう  
に思います。

○井上博明議長 上田乙訓若竹苑施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 防災訓練に対しましては、毎年、年2回実施しております。身体障害の方、知的障害の方、それから変化に弱い方がたくさん通所されて  
おりますので、その辺には配慮しながら避難訓練をしております。ただ、訓練を繰  
り返すことによって、実際に火事が起きたときにこういう避難経路を取る、誰の指  
示に従って自分は行動したらいいかということをも身につけるといことが利用者  
にとって一番やらなければならないことだというふうには自覚してやっております。

○井上博明議長 米澤議員。

○米澤知紀議員 ありがとうございます。やはり今後、福祉的避難というところがす  
ごく重要になってくると思います。やはり実際に実施してみると、その音に反応し  
て動けなくなってしまう人とか、どうやって誘導していくのかということ、大変  
重要になってくると思うので、せっかくだので近隣の施設とかとこういう状況を  
共有して、有事のときに備えていただけたらいいなと思います。要望です。ありが  
とうございます。

○井上博明議長 ほか、ございませんか。

辻議員。

○辻真理子議員 すみません、決算書の25ページから、先ほど局長からもありまし  
た人件費のほうが減額になってまして、事務報告書の30ページでも、障がい者相  
談支援課のほうなんですけども、こちらは前年度、令和4年度に比べてかなり件数  
が伸びてるんですけども、今の現状と職員体制がどうなってるかをお聞かせくだ  
さい。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 現状の職員体制でございますが、相談支援課につきましては  
一般職員を1名、今年度増員をしております。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 この事務報告書の1ページのほうの障がい者相談支援課というところ  
のこの3名というのが、1名増員しての3名という理解で合ってますでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 辻議員のおっしゃるとおりでございます。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 令和4年度の決算のときに、こちらの障がい者相談支援課の人員を

やはり増やしていくということで、4名から5名を検討するということがあったんですけども、それでもこの3名で足りてるといふことなんか、この件数、1人当たりが受ける相談件数ってかなり増えてると思うんですけども、この伸びと来年度以降で、令和7年度以降の体制のほう、どのように考えてるかお聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 失礼いたしました。まず1点、訂正をさせていただきます。現状は、令和6年3月31日現在から1名、一般職を増やしておりますので、障がい者相談支援課は合計4名で運営をしております。

令和7年度以降ということでございますが、乙福全体の職員の体制を見ながら、また二市一町の皆様と協議して、必要な体制を整えていきたいというふうに考えております。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 今回、この相談というものだけ見させてもらって、ポニーのほうもやっぱり増えてますし、この若竹苑での相談のほうも、件数は伸びてなくてもモニタリングのほうはかなり増えてるといふところで、そこら辺の職員体制というのも踏まえて、来年度以降のところは検討いただきたいと思っておりますのでお願いいたします。

○井上博明議長 ほか、ございませんか。

住田議員。

○住田初恵議員 今の障がい者相談支援課についてなんですけれども、先ほど言われた相談の分野だけじゃなくて、虐待の分も事務報告書の35ページに出てるんですけども、虐待のほうも令和4年度が29件、令和5年度は42件というふうにかかなり増加してきてますし、通報ごとに二市一町と協議や事実確認を行って、必要に応じてケース会議とか家庭訪問とか面接などを行うなど、丁寧な取組がされてるんですけども、すごくやっぱり業務は増えてきてると思うんですね。自立支援協議会も医療的ケア委員会、2つの部会、4つのプロジェクトで活発に活動されておりますし、全体を見て明らかに業務が増えておりますし、ここの障がい者相談支援課というのはいっと職員を増やすべきではないかと考えています。令和6年度は4人なんですけれども、7年度以降、増やすために、この前聞いたらなかなか公募しても人が来ないことをお聞きしてたんですけども、そしたら今、介護とか福祉の職員不足というのはいっとも深刻で、やっぱり増やすために福祉フェアとかも行われてるんですけども、そういう福祉関係の就職説明会にここからちゃんと参加してはる

のか。それから部門は違うんですけども、長岡京市でも水道の技術職員も不足してて、そのために何とか確保しようと大学に行ったり、そういうことをしてるんですけども、ここでもそういう大学への働きかけとかはされてるんでしょうか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 議員の御質問でございますが、大学等につきましても、専門学校も含めてこちらのほうから採用試験を実施するという御周知をさせていただいておるところでございます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 採用試験の通知だけじゃなくて、やっぱり大学の先生とちょっとつながりを持つとか、やっぱりそういう働きかけも必要なんじゃないかなと思うんですけど、その辺はされてますか。

○井上博明議長 城谷総務課長。

○城谷晋太郎総務課長 各業務の中でお知り合いになられた大学の先生等につきましても直接お話をさせていただきまして、採用試験があるということで、周知させていただいておるような状況でございます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。やっぱりこの良さというのを、やっぱり教授にも知っていただいて、職員の方が採用できるようにこれからも取り組んでいきたいと思えます。

生活介護についてなんですけれども、事務報告の18ページを見ますと、1日の平均利用者数は3人。令和4年度も3人。出席率99.3%とほぼ毎日来苑、開苑してるときは来ておられるのかなという感じです。平均年齢も37歳と若い方が利用されてるなということは分かるんですけども、18歳から19歳はゼロ人ですし、20代もゼロ人なんです。支援学校卒業生でこういう生活介護が必要な方は、どこの事業所を利用されてるのか、把握はされていますでしょうか。

○井上博明議長 上田乙訓若竹苑施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 圏域内のほかの生活介護事業所を利用されているものと理解しております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 もうそれはきちっと聞いて、今度、卒業生はここに行かれたのやなとかということが分かってるということですか。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 支援学校の卒業生の進路について、全てこちらのほう

で把握するということはできませんので何とも言えませんけれども、進路指導の中で、ふさわしい事業所を選んで利用されているものと考えております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 ありがとうございます。

事務報告の33ページに自立支援協議会の運営委員会の何か報告が出てるんですけども、そこが向日が丘支援学校の進路先として生活介護事業所、特に医療的ケアを含む肢体障害のある生徒の定員に空きがない状況で、自立支援協議会運営委員会としては、新設とか既存の生活介護事業所の空きがないかなんかを調べて情報を共有しているという記載があったんですね。やっぱり今、こういう空きがなくて困っている生活介護が必要な方を、公の施設である若竹苑でこそ、こういう人を受け入れていくべきなんじゃないかなと考えるんですけども、その辺はいかがでしょうか。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 今の御質問にお答えいたします。どこに行かれるかということ、やはり利用される方、保護者も含めてになるとは思いますけど、そちらの方の選択の中にあるかと思えます。その中で今現在、現状として若竹苑が選ばれてないということだと思いますので、公立云々というのは少し違う話かなと思います。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 若竹苑はもう3人って決めてはるじゃないですか。だからそれ以上に選択肢に入るんですか。

○井上博明議長 川本事務局長。

○川本 進事務局長 今現在、若竹苑の方向性については縮小、廃止というのは知っていただいておりますので、その現状を知っていただいた上での選択肢になるかと思えます。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 私、先ほども言いましたけれども、やっぱりそういう、今どこに行くか困っている、そういう人が、18歳以上の人がいるんですから、その縮小にだけ、求められているんだから、やっぱりこの公の施設である若竹苑でこそ、そういう方々を入れていくべきだと私は思いますので、一応、指摘だけしておきます。

地域活動支援センター事業についてお聞きします。事務報告の20ページに、実際の1日の利用者数が4.1人、前年度は3.9人で、職員の方は令和4年度も5年度も、令和4年度が5人で令和5年度は4人となってるんですけども、利用者さんが4.1人で職員が4人という、こんなに手厚くすることがいいのかなって、

ちょっと疑問に思うんですけども、どうでしょうか。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 地域活動係では、日中一時支援のほうの事業も職員が兼務となっておりますので、その職員体制が妥当と思っております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 日中一時支援の平均1日の利用者数は3.6人ですね。合わせたら7.7人ですけども、だからそれ、職員さんが4人必要という状況なんですか。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 日中一時支援事業に関しましては、重度の障害の方がたくさん御利用いただいております、1対1の対応であったりということが必要になりますので、この職員配置となっております。

○井上博明議長 住田議員。

○住田初恵議員 はい、了解しました。

○井上博明議長 ほか、ございませんか。

辻議員。

○辻真理子議員 先ほどの日中一時のところなんですけども、この令和5年度で緊急枠で1人御利用があったんですけども、その後の対応というところまでをちょっと状況として把握されてるか、まずお聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○井上博明議長 上田乙訓若竹苑施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 この方に関しましては、その後、ショートステイのほうの利用に引き継ぐまでの間を緊急で対応させていただいたということになっております。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 はい、分かりました。この間、緊急のときに枠がないというところで、もうこの若竹苑の日中一時のところでそういう枠を広げていただいたというのは、結果としてやっぱりこういう緊急の対応ができるというのはすごくいいことだなと思っておりますので、ここの枠というのは継続していただきたいです。もちろんちょっと緊急ですので、先ほどもおっしゃったみたいに、ちょっと職員体制であったりとか、緊急具合が1週間かかるのか、そこら辺も踏まえて相談がやっぱりそこでもまた必要になってくると思っておりますので、その点については枠としては残していただきたいと要望させていただきたいんですけども、やはりこの日中一時のほうも、やっぱり今ちょっと増えてきてる、利用の曜日とかというのがやっぱり傾向として

表れてきてるのではないのかなと思うんです。その点についての来年度以降、変更であったりとか、あとは日中一時ですので、きっと乙訓の放課後デイサービスを週に3日しか使えないというところの関連性もあるのかなと思うんですが、そこら辺のちょっと傾向と、来年度以降のこの利用曜日というところの拡大であったり、縮小とか、そういう考えがあるのかお聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 日中一時に関しましては次年度以降も同様の事業でやっていこうとは思っております。ただ、ニーズが増えてきているのも事実ですし、特に土曜日の開設をしておりますので、土曜日の利用ニーズは大変高いものとなっております。そこにできるだけ応えられるような形でさせていただきたいなと思っております。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 ありがとうございます。ちょっと職員体制のところでも地域活動支援センターのほうも平日だけじゃなくて、土曜日も開所いただいでるところで、やはり土日の利用というところが今後ニーズとしては増えてくるのかなと思ったり、やっぱりそこに関して若竹苑としてどういうサービスを、どの曜日であったり、どの時間帯、どういう方を対象に拡大していくのかというのをちょっと過渡期だと思うんですけども御検討いただいで、そこを乙訓としての必要なサービスとしての、特に日中一時ってなかなか単価が、こんな言い方したらあれですけど安いので、なかなかそういうところはやっぱり公が受けていけない、事業継続という形で残していただいできたいと思っておりますので要望させていただきます。

あと1点なんですけれども、事務報告書の14ページのところに、この間の職員さんの研修の実施状況というのを見させていただいたんですけども、ちょうど真ん中辺りに、この令和5年度のとくに災害時の要配慮者支援制度個別避難計画研修というのを受けられてるんですけども、なかなかこれ、乙訓二市一町、要支援者の個別計画が進んでないと思うんですが、これを受けて若竹苑として個別避難計画を作成を、例えばですけどもいろいろポニーの学校に通われてる例えば児童さんであったりとか、そういうところに何か進んでいくとか、ちょっと今後どういうふうな形を考えてるか、お聞かせいただいでよろしいでしょうか。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 個別避難計画の策定につきましては、市町のほうでモデルとなる方から今、取組を進めているところでございまして、それに協力をしていくという形で進めていこうと思っております。

○井上博明議長 辻議員。

○辻真理子議員 ありがとうございます。こちらもなかなか進まないというので、ケアマネジャーさんとか、そういう介護施設の方との連携で作成していっておられる事例があったりとかってなってくると、きっとこの若竹苑であったりとか、ポニーの学校にも協力依頼がかかってくるのではないのかなと思いますので、さらなるこういう研修というものを職員さんに毎年行っていただきたいと思いますが、今年度、こういう形で何かしら研修であったり、今後の見通しというのがあればお聞かせください。

○井上博明議長 上田施設長。

○上田佳子乙訓若竹苑施設長 この個別避難計画の策定についての研修等ございましたら、情報収集いたしまして、出れる限りの職員が出れるような体制をしていきたいと思っております。

○井上博明議長 ほかにございますか。

(「なし」の声あり)

では、質疑もないようですので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、反対討論を求めます。

(「なし」の声あり)

次に、賛成討論を求めます。

(「なし」の声あり)

意見がないようですので、討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

第7号議案について、原案のとおり認定することに賛成の方は挙手願います。

(賛成者挙手)

挙手全員であります。

よって、第7号議案は原案のとおり認定されました。

次に、日程6、第8号議案 令和6年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算(第1号)についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

安田管理者。

○安田 守管理者 ただいま議題となりました、第8号議案 令和6年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算(第1号)について御説明申し上げます。

今回の補正は、歳入歳出予算の総額に、それぞれ4,631万4,000円を追

加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ6億1,873万2,000円とするもの  
でございます。

それでは、まず歳出についてですが、予備費におきまして、収支の財源調整によ  
り4,631万4,000円を増額計上いたしました。

次に、歳入についてですが、前年度の決算額が確定いたしましたことから、繰越  
金として、歳出と同額の4,631万4,000円を増額計上いたしました。

以上で、令和6年度乙訓福祉施設事務組合一般会計補正予算（第1号）の説明と  
させていただきます。

よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○井上博明議長 ただいま提案理由の説明がありましたので、本案に対する質疑を行  
います。

御質疑ございませんか。

（「なし」の声あり）

質疑なしと認め、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、反対討論を求めます。

（「なし」の声あり）

次に、賛成討論を求めます。

（「なし」の声あり）

意見がないようですので、討論を終結いたします。

これより採決に入ります。

第8号議案について、原案のとおり決することに賛成の方は挙手願います。

（賛成者挙手）

挙手全員です。

よって、第8号議案は原案のとおり可決されました。

次に、日程7、議員の派遣についてを議題といたします。

お諮りいたします。

会議規則144条の規定に基づき、本年10月11日に実施する本組合議会議員  
視察研修に9名の議員を派遣することに御異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

御異議なしと認め、9名の議員を派遣することに決定いたしました。

なお、やむを得ない事情により変更または中止につきましては、その決定を議長  
に委任いただきたいと思いますと思いますが、これに御異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

異議なしと認め、やむを得ない事情による変更または中止については、その決定を議長に委任することを決定いたしました。

以上で本日の議事日程は全て終了いたしました。大山崎町議会選出議員につきましては10月に役員改選を迎えますことから、本議会が最後の定例会となりますので、各議員の皆様より御挨拶いただきたいと思います。

まず、辻議員、お願いいたします。

○辻真理子議員 2年ということですが、私、議員にならせていただいて約10年ほど、もうずっとここに寄せていただいております。大変お世話になっております。その中でもやはり今回も事務報告を見させていただくと、自立支援協議会のほうとかでは、やはり乙訓の課題というところで医療的ケアの子供さんであったりとか、入浴サポートというプロジェクトをつくられたりとか、やっぱりそういう乙訓全体で何か補えるものというところをこの乙福で実現していくというところにも、少しですけれども力になれているのかなと思います。

ただ、今後、団塊世代の方たちがどんどん後期高齢になられまして、介護も福祉もやっぱり人材不足というところを何とかやっていくというところには、やっぱりもちろん乙訓だけでは難しいこともありますし、京都府であったり、国というところにやはり実態を伝えていっていただけるのはやはり現場の方やと思いますので、そこにつきましてもまた今後も協力させていただきます。

2年間ありがとうございました。

○井上博明議長 続きまして、小畑議員、お願いします。

○小畑孝信議員 乙訓二市一町でどのように福祉施策が進められているのか、行われているのかということで、1期目でありますんで本当に勉強になりました。今後、委員を外れましてもしっかりと研さんし続けていきたいと思っております。

本当にありがとうございました。

○井上博明議長 結びに、大変恐縮ではございますが、私から御挨拶させていただきます。

2年間、職員の皆様、そして議員各位の御協力の下、議長の職を無事終えることができましたことを厚く御礼申し上げます。

管理者、そして職員の皆様には今後とも地域の福祉のために御尽力いただきますことをお願いいたしまして御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、これもちまして、乙訓福祉施設事務組合議会令和6年第3回定例会を閉会いたします。

皆様、ありがとうございました。

(閉会 午前10時53分)

地方自治法第123条第2項の規定により下記に署名する。

乙訓福祉施設事務組合議会議長 井上博明

会議録署名議員 田村直義

会議録署名議員 村田光隆